

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 沖山 栄一 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

#### 1 前 文

学習指導要領が新しくなって最初の共通テストとなった。これまで、学習指導要領が改訂されて最初の年の大学入試センターが出題する試験は易化する傾向があると同時に、学習指導要領の基本的な考え方を十分踏まえた出題となる傾向があった。今回もその傾向は顕著で、『公共、政治・経済』の出題内容は極めて平易であり、学習指導要領の基本的な考え方を十分意識して出題されている。後期中等教育の学習内容を理解した上で、高等教育において学ぶ基礎基本が身につけているかどうかを確認し、基礎的基本的な確かな知識に基づき、広い視野から思考力判断力が備わっているかを問う出題となっている。出題分野の極端な偏りはない。以下、具体的に各問について意見と評価を申し述べる。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

試験問題の難易度は平易であり、「公共」及び「政治・経済」の授業を履修していれば容易に正答が得られると考えられる。設問数は、「公共」から2大問、8小問、「政治・経済」から4大問、24小問であり、解答時間に余裕はないものの決して答えられないほど時間がないわけではない。基礎的基本的な問いを中心に思考力判断力を働かせ、短時間に正確に読み解いて答える学力を重視しているという意図が伝わる。配点は基本的に各問3点配点で、思考力や判断力が問われる問いの配点を4点としているのも妥当である。形式は、基本的に、選択式であっても思考力や判断力を問えるように工夫してある。しかし、すべての可能性のある組合せを網羅的に示す選択肢の問いもあり、4択に絞って提示することに出題者側の出題のねらいを受験者に伝えるという意味があることを考えると、網羅的に選択肢を用意することが教育的なのかどうか、疑問は残る。

第1問 「公共」からの出題。男女共同参画社会を大きな主題として、平等権に関する基礎的基本的な知識、図表の読み取りと分析の力が問われた。基礎的基本的な問いであり、平易である。

問1 憲法14条の理解を問うとともに、日本における男女雇用機会均等法から男女共同参画社会基本法へと向かう流れとその背景となった国際社会の男女平等の動きについて問う。平易。

問2 性別役割意識に関する資料二つの読解力と分析力を問う。表の数字や内容を丁寧に追いかければ正答は平易。

問3 女性議員比率の国際比較から読み取れる内容と主な国の制度についての基礎的基本的な知識を問う。平易。

問4 形式的平等と実質的平等及びアイヌに関する人権について基礎的基本的な知識を問う。会話文の中にウポポイの例が示され、フィールドワークへの示唆が見られる。

第2問 「公共」からの出題。公共空間の持続的形成についての問題。平易。

問1 コミュニケーションや多様性、複数性についての基礎的基本的な知識の確認と確かな知識を活用した思考力と判断力を問う。

問2 内閣府調査に基づき、「時間のゆとりの有無」「自由な時間の過ごし方」から読み取れる内容を三つの資料文と突き合わせながら読み取れる内容として適切なものを選ぶ問い。

- 問3 哲学カフェに参加したという状況を設定して、実は帰納法か演繹法かという方法論について正しく理解できているかを問う。平易ながら大切な問い。
- 問4 公共空間の持続的形形成について、対面と非対面という視点から具体例を考え出す思考力を問う。
- 第3問 生徒自身のキャリア形成や地域社会の課題を考えるという建付けで、物価、選挙、農業、表現の自由、ふるさと納税、防災と減災などについて基礎的基本的な知識と確かな知識に基づく思考力判断力を問う。
- 問1 戦後日本経済史と物価変動について基礎的基本的な知識をグラフから読み取る平易ながら工夫された問い。
- 問2 選挙制度について現状と課題を問う。
- 問3 食料安全保障と地産地消について基礎的基本的な知識を問う。
- 問4 市場原理と表現の自由についての基礎的基本的な知識を資料読解に基づき考えて解く。
- 問5 ふるさと納税の功罪を考える問い。
- 問6 防災・減災を主題に損失補償や公助・共助について基礎的基本的な知識を問う。
- 第4問 国際政治、国際経済に関する基礎的基本的な知識と確かな知識に基づく思考力判断力を問う。
- 問1 金融政策についてマネタリーベース、マネーストック及び債券の価値と利回りについての基礎的基本的な知識を会話文の文脈から考えて解く。
- 問2 日本、アメリカ、インド、韓国、中国及びドイツの貿易収支と一人当たり GDP の推移から各国の特徴を読み取る思考力判断力の問い。平易ながら考えさせる大切な問い。
- 問3 21世紀の国際経済について、自由貿易やサブプライム・ショックなど基礎的基本的な出来事を確認する。
- 問4 ICCに関する基礎的基本的な知識を問う。
- 問5 国連安保理における常任理事国が拒否権を行使した際に説明を求めることができる総会決議について基礎的基本的な知識を問う。2年前のことであり教科書に記述はないだけに高校生には難しいが、ウクライナ戦争などの現下の国際情勢を見るとき、出題者の意図は理解できる。
- 問6 アラブの春について世論調査と会話文の理解を関連させながら基礎的基本的な知識と思考力判断力を合わせて問う。
- 第5問 世界の格差と貧困から日本の労働問題、社会福祉を問う。
- 問1 BOP ビジネスについて理解している高校生は少ない。しかし、消去法で考えれば、ミニマム・アクセス、トレードオフ、絶対的貧困率のいずれの説明も誤りであることから正答は得られる。
- 問2 韓国の労働政策についての会話文を読みながら日本の労働政策についての基礎的基本的な知識を問う。
- 問3 ノーマライゼーションや障害者雇用促進法についての基礎的基本的な知識を問う。
- 問4 一般の契約と労働契約の特徴を理解しているかを問う思考力判断力の問い。平易ながら資本主義経済の根幹に関わる大切な問い。
- 問5 労働生産性と労働組合組織率の国際比較をとおして日本の現状と課題を高校生に認識させる問い。
- 問6 かつて日本的雇用慣行といわれた終身雇用、年功序列賃金、企業別組合を問う。
- 第6問 経済活性化のための方策としての企業の新規参入の促進を主題にしたリードから株式会

社、需要と供給による価格決定メカニズム、イノベーション、検察審査会、消費者問題、農業問題について問う。

問1 株式会社について、株主、所有と経営の分離、メインバンクなど日本の企業について理解する上で必要な基礎的基本的な知識を確認する。

問2 説明を読みながら受給曲線に従い価格決定のしくみについて理解できているかを問う。

問3 イノベーションが経済成長に寄与するという考えを会話文の中で成り立たせる思考力判断力の問い。

問4 検察審査会について基礎的基本的な知識を確認する。

問5 消費者問題に関して製造物責任法や事前規制か事後規制について基礎的基本的な知識と考え方を問う。

問6 農業分野への企業進出に関して、図の読み取りと会話文の読解に基づき考える問い。

### 3 総評・まとめ

受験者が基礎的基本的な知識を確認し、受験者が自ら獲得した知識を活用し、思考力や判断力を働かせ、今日に生きる私たちが抱える社会的な課題をいかに解決したらよいかを当事者意識をもって思考する力があるかを問うとともに思考しているかを問う問題である。問題はいずれも学習指導要領に示されている「公共」及び「政治・経済」で学習する範囲内であり、極端な難問や奇問はない。問題のリード文は、高校生が調べたり学んだりしている状況から示されることが多い。これは高大接続を意識してのことであろう。しかし、高校生が学んだ内容を理解していれば読める1ページ程度の文章を読ませて考えさせるというセンター試験で長く出題されていた形式も復活しても良いのではないか。ものを考えることの大切さを受験者に示す意味で思考力判断力を問う重厚な問題が一つあってもよいだろう。後期中等教育の学習が高等教育における研究へどう発展できるのかを高校生に示すことも教育的配慮であろう。

### 4 今後の共通テストへの要望

共通テストの高校現場への影響力は極めて大きい。出題者の意図を超えて出題者の意図とは異なったメッセージとして教育の現場に想定外のメッセージを伝えることになる場合さえある。それだけに、後期中等教育の健全な発展に資する質の高い問題を作成し続けてもらいたい。安易な問いは避け、基礎的基本的な知識を理解しているか、理解した知識を用いて大学で学ぶにふさわしいだけの思考力や判断力があるのかを判断できる問題を作成し続けてもらいたい。さらに、大学側から高校生へのメッセージとしての役割があることを踏まえ、リード文については高等学校の学びを想定したものだけでなく、エッセイとしても読み込むと社会科学の基本的理解が広がるような優れたリード文による問題も期待する。